



令和3年4月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 月岡 幽美子

〒380-0936
長野市大字中御所字岡田98番地1
(長野県社会福祉協議会内)

特集

ひきこもり支援 —NPOを訪ねる—

Contents

- ◆ 特集
ひきこもり支援
—NPOを訪ねる— 2~5
- ◆ 民児協訪問
下諏訪町民生児童福祉委員協議会 6
飯山市秋津地区民生児童委員協議会 7
- ◆ コロナ禍の民児協活動 8

ひきこもり 支援

—NPOを訪ねる—



長野県及び市町村は、民生児童委員の協力を得て平成31年（2019年）2月を調査基準日として「ひきこもり等に関する調査」を実施し、県内でひきこもり該当者2,290人という結果を発表しました。40歳代が最も多く約30%を占め、ひきこもり期間が10年以上に及ぶ者は40%を超えました。中高年層ほど長期間の割合が高く、生活困窮が懸念される状況でした。

「つなぐ」の広報委員会でも「ひきこもりを家族が隠す傾向にあり、なかなか把握ができない。見かけることもあまりなく、見かけてもどう声をかけていいのか、どう支援していいのかわからない」という声が上がりました。

そこで、地域でひきこもり支援に長年取り組んできた、2つのNPO法人を訪ね、支援の現状や、民生児童委員へのアドバイスをお聞きしました。

認定NPO法人 さむらい 侍学園 いまじん スクオーラ・今人

教頭: 平形 有子 (ひらかた ゆうこ) さん

上田市本郷1524-1 TEL 0268-38-0063
メール info@samugaku.com URL: https://samugaku.com

▲侍学園の外観。上田駅から車で15分ほどの郊外にあります

平成16年に理事長の長岡秀貴さんの描く「生きることを学べる学園」を目指し開校しました。寮生活を体験し、学園生活を過ごすことができる教育施設です。翌年には映画「サムライフ」が制作上映され話題になりました。

現在、上田市の本校には16歳から41歳まで約30人が在籍しています。3年から4年程度で修了する人が多く、過去に約50人が卒業し巣立っていきました。東京校と沖縄校があり、連携して運営。生徒は福島県から沖縄まで、長野県内出身者は約半分。男性が7割くらいとのこと。現状をお聞きしました。

ひきこもりの原因は千差万別

—どんな背景を持った子が多いですか？

平形 様々な原因で学校に行かなくなり、ドロップアウトした子がほとんどです。いろんな学校にトライしては失敗し、失敗が怖いという子達の最後の砦となっていると感じています。家庭との関係では、過干渉で育てられたまたは育児放棄されてきた子の二つの傾向があるかなと思います。

—ひきこもりの原因はなんですか？

平形 わかりづらい発達障害により、学校でいじめに遭うなどして二次障害でウツになってしまった子とか。社会に出て人との関係で心が折れて自信をなくした人もいます。普通の家庭で育った子もいますし、一概には言えません。

—困ったら相談できるのですか？

平形 現在スタッフは臨時職員も含め、長野本校に16人います。ひきこもりの経験者や、臨床心理士などの専門家もおり、上田市内で「若者サポートステーション・シナノ」も運営しています。連絡をいただければ、つなぐこともできます。学園では、入学相談や見学は無料ですが、本格的なカウンセリングは有料になります。また、他のNPOと連携して「うえだこどもシネマクラブ」を開催し、学校に通っていない子どもと親が集まって、映画鑑賞やコミュニケーションカフェ、シンポジウムなどが機会を作っています。カフェでは

月1回無料相談もあります。

学園では生きることの基本を学ぶ

—学園生にはどんな人がいますか？

平形 様々な背景や、特性を持った学園生が集まっています。発達障害の人や長い間ひきこもっていた人もいます。性格も年齢も、家庭状況も違う、学園はまさに社会の縮図です。20代を中心に10代から40代までいます。

—長くひきこもっていても大丈夫ですか？

平形 10年以上ひきこもっていた子が、自らなんとかしなきゃと通いはじめた事例もあります。

—「生きることを学ぶ」とは、何を学ぶのですか？

平形 ひきこもっていると、家事は親がやる場合が多いため、まず1つ目は「生きるための基本」として「衣食住」



▲教頭の平形有子さんは、劇団員として活躍後、東北で被災。その後、上田市に移住し教頭に。



▲1Fには式典や講演会、演劇もできるホールがあります。



▲1Fの廊下にはこれまでの学園の活動が掲示されています。



▲授業の様子。円になって、ゲーム感覚を取り入れて自分の意見を交換。

—そんなに簡単に変わるのですか。
平形 一人一人の段階に合わせて進めます。朝、起きられない子や、最初は

—職員は学園生にどう接していくのですか。
平形 第1ステージとしては、とにかくその子の話を聞きます。聞く中で趣味嗜好を知り、スタッフと信頼関係を築き、学園生との接点を探していきます。第2ステージになり、初めて提案をします。身だしなみを整え、美容室に行ってみるとか、声のトレーニングなど具体的なことをしていきます。第3ステージとして、少しプレッシャーをかけていきます。例えば、学校の行事、生徒会活動に加わるなど、役割を与え、さらにはアルバイトにも挑戦します。

—カリキュラムになっているのですか。
平形 スケジュールは決めてありますが、臨機応変に生徒の状況に合わせて進めます。出席はあくまでも自由です。

—卒業式にはどう変化がありますか。
平形 学校にも来られない、人とも話せなかつた子たちが、ステージの上で自分の気持ちを堂々と伝えられるようになります。感謝の気持ちだけでなく、後輩にアドバイスまでする子も出てきます(笑)。

—親にはどう接したらいいのでしょうか。
平形 親はどうしていいのかわからない、こちらからアクションを起こすのではなく、もしも相談されたら聴いて受け止めてあげてください。その時、アドバイスはグッと我慢して、専門の機関

—民生児童委員がひきこもりの子たちにどう接したらいいのかわからない。
平形 例えば家の近くで見かけたら、普通に挨拶をしてあげてください。腫れ物に触るのではなく、普通の若者と同じように扱うことです。すると相手も安心します。

—驚きですね。
平形 ここは、居場所というよりは学び舎です。自分が必要なものを手に入れて、社会に出ていく場です。学校に行かなくなつた子は、喪失感を持っていますから、友達と過ごす学園生活を送らせてあげたい。そして自分の手で乗り越える力を育んでほしいと願っています。

—受け止めて、つないでほしい。
 つなぐことをおすすめします。保護者の勉強会や自助会などもあります。学園にはネットワークがあるので、困つたらまずご連絡いただければと思います。(相談機関はP5参照)



▲理事長長岡秀貴さん著作の最新書籍『ライン』ほか、『ダッセン』『サムライ』『世の中変える』で食う方法』など販売書籍。

ひきこもり支援 —NPOを訪ねる—



NPO法人 ジョイフル

理事長：横山 久美 (よこやま くみ) さん
 塩尻市広丘原新田282-2 TEL 0263-51-9088
 メール joyful@taupe.plala.or.jp URL: https://npo-joyful.com/



▲保育園を改装した建物で、閑静な住宅街にあります

平成13年に不登校やひきこもりの人達の居場所からスタート、翌年にはNPO法人化し、現在まで20年にわたり不登校やひきこもり、ニートに悩む若者や、家族の支援をしてきました。事業は、不登校児童生徒支援事業、自立支援トレーニング事業、若者サポートステーション、中信号子ども・若者支援地域協議会運営事業、コミュニケーションツール開発事業など多岐にわたっています。



▲相談室は個室になっていて、外に内容を漏らすことはありません。



▲理事長の横山久美さん。
 試行錯誤しながら、ジョイフルの活動を支援してきました。

不登校の居場所からひきこもりの個別相談へ

—この活動をはじめたきっかけを教えてください。

横山 自分自身のできることを模索していた時、登校拒否が社会問題となっていました。カウンセラーの勉強をスタートした頃、松本市内のフリースクールを新聞で見つけ、ボランティアを始めました。

—その後、塩尻市に拠点を置いたのですか。

横山 空き家を利用し、不登校やひきこもりの人達の居場所開設を地元で決意しました。週3日、2人の職員が常駐しました。続けるうち、元気になっ

ても出入りを繰り返す子も。ステップアップが必要だと痛感しました。平成14年頃には社会勉強ができるよう、市役所の前でカフェを運営。高校生やひきこもりの子、10代から20代が出てくるようになりました。

—どう対応したのですか。

横山 本人の動く力に寄り添いながら、伴走する形の支援を行いました。そして平成16年には、サポートステーションのモデル事業を全国25カ所の一つとしてスタート。受け入れ人数も増えていきました。

—不登校の支援は無くなっていったのですか。

横山 もちろん、今でも相談を受けています。ですが、当時リーマンショックもあり、家庭が困窮し利用料を支払えない家庭が出てきて、居場所の運営が苦しくなりました。居場所というよりは、個別ケースへ対応できる場が必要となっていました。

—現在は、相談や職業体験などは有料ですか。

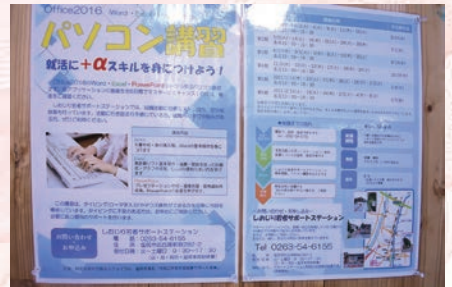
横山 厚労省や長野県などの委託も含め事業を複数組み合わせ、ほとんど無料で対応できるようにしました。相談員が多い時で1日一人5〜6人、計15人程度を担当します。また、この場所に来て、朝活をしたり、講座を受けたり、軽作業をしたりなど、様々なカリキュラムを用意しています。



▲受付付近には、様々なサポートの情報が集まっています。気軽に声をかけてください。



▲中信子ども・若年者支援地域協議会運営事業で、月一回3カ所で開催場所もやっています。



▲しおじり若者サポートステーション事業で、パソコン講習なども。

ひきこもりは、外からの見え方と内面に差がある

— ひきこもりについて教えてください。

横山 外からの見え方とその人の内面に差があります。ゲーム・スマホなどをやり続け、外から見ると、生産活動をせず、悩んでも困ってもいけないように見えるかも知れません。

— 厳しい目で見られがちですね。

横山 しかし、頭のなかでは、何をしていたりも、ものすごく辛い状態です。過去のいじめの経験や、周りから言われた辛いことなどが頭の中を巡りつづけドドロロになっていることが多いようです。

— そうなのですね。

横山 本人は言い出せないのでしょうから、周りにわかるはずもありません。正直、生きる意味を見出せないでいるのです。家族からも歓迎されていないと見え、動きたいけれど動けない。エネルギーが奪われて、助けを求める勇気はありません。

— 何故そうなるのですか。

横山 他人に裏切られたことがあって、否定されることが怖い。相手がどう捉えているのか、感じやすく、感覚が鋭くなっています。

— ご家族も大変でしょうね。

横山 ご家族は、世間に対し、ひきこもりの子がいるという負い目を感じる人が少なくありません。常に不安な状態にあります。「親のしつけがいけない」と捉える人もいるため、地域では味方がいないと感じてしまいます。

— どうすればいいですか。

横山 周りの皆さんは、そういう目で見ないことです。実は味方になってくれる存在が欲しいのです。地域で噂話に直面したら、親御さんの肩を持ってあげて欲しいです。いろんな要素が重なってひきこもりになるので、誰にも同じことが起きる可能性があるのですから。

相談されたら支援協議会や専門家へつなぐ

— どう声がけすればいいですか。

横山 積極的なアプローチは裏目に出してしまうことが多いです。何もせずに挨拶程度で見守ることが先決。相談されたら、意見は言わずに受け止めて、保健師や*まいさぼなど支援機関につなぐといいと思います。専門家とチームでサポートしていく態勢が大事です。子ども・若者支援地域協議会の事務局

である団体に問い合わせさせていただいてもOKです。(左表参照)

— 家族の相談にも力を入れていきますね。

横山 ご家族は本当に困って疲れ切っています。本人が家庭内で暴力を振るったり、自傷行為をしたりするので、と、ビクビクし眠れない日々を過ごしている場合もあります。そんな親の相談場所がありません。そんな親のジョイフルでは、親の相談にも乗り、子どもへの適切な声がけのアドバイスをします。家の中だけでも安心して過ごせるようにサポートします。

— 子ども親も辛いですね。

横山 「大丈夫だよ、生きていていいんだよ、価値ある人間なんだよ」と伝えたいです。学校や就職だけがゴールではないのです。その人が安心して自分らしく生きられることが大事です。本人もご家族も、社会に対しても将来についても、不安や恐怖しかないのです。これからも、安心を与えるサービスを提供していきたいと思っています。

長野県子ども・若者サポートネット

県では「子ども・若者支援地域協議会」を、東信・南信・中信・北信地域それぞれ設置しています。ニート、ひきこもり、不登校、発達障がい等の子ども・若者を支援するため、様々な機関が連携しながら支援しています。

南信子ども・若者支援地域協議会事務局
特定非営利活動法人 子ども・若者サポートはみんなぐ
 伊那市荒井3500-1伊那市生涯学習センター5階
 TEL・FAX 0265-76-7627

中信子ども・若者支援地域協議会事務局
特定非営利活動法人 ジョイフル
 塩尻市広丘原新田282-2
 TEL・FAX 0263-51-9088

北信子ども・若者支援地域協議会事務局
企業組合 労協ながの
 長野市南長野新田町1482-2
 TEL 026-213-6051
 FAX 026-213-6052

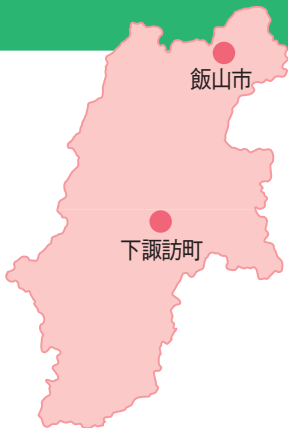
東信子ども・若者支援地域協議会事務局
選定中

*まいさぼとは

生活困窮者自立支援法に基づき設置された「生活就労支援センター」のこと。長野県内では愛称「まいさぼ」で親しまれています。生活困窮者からの相談に基づき、必要な支援と一緒に考えながら計画を立て、自立を支援しています。

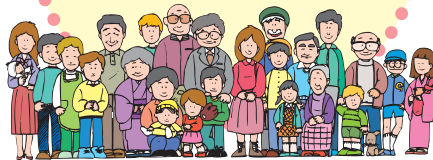


訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協 だより



下諏訪町民生児童福祉委員協議会



▲民生児童委員の皆さん。会長の大和さんはじめ、副会長の両角さん、中村さん、松澤さん、小松さんほか。

社協と連携したきめ細かい支援。つなぎ役として地域を支える存在に。

下諏訪町は、諏訪湖の北岸、諏訪大社の春宮・秋宮があり、温泉の湧く宿場町ということもあり、町の方々は共同浴場や銭湯に通うことも多いとのこと。生活の中に温泉が根付いている様子です。若者が少なくなっているとはいえ、しつかり祭りを受け継いでいる地域です。しかし高齢化率は諏訪地域6市町村

の中で高く、40%に近付いているとのこと。若者の都会への進学や大手企業の流出などが要因で人口減少が進んでいます。民生児童委員が56人で福祉委員を兼ねています。主任児童委員は3人。

民生児童委員活動については、「近年は隣近所の貸し借りといった関係が薄れ、多くの方は地域のことまで気にかける余裕がないほど忙しくなっています。だからこそ私たちは社協や行政と連携し、地域の方々に支えていこうと活動しています。」と大和会長は話してくださいました。

「私たちは潤滑油」と4人の副会長は声を揃えます。「聴いてつなく」パイプ役として、当事者に踏み込み過ぎず、関係者に相談を心がけます。

定例会では委員から「ゴミが出せなくて溜まっている高齢者のお宅があつたため、社協へ電話し『ご近所の輪』ボランティアに声をかけてもらつた」と発言があり、出席した社協職員から事業説明がありました。

また、約15人ずつに分かれ、4部会で活動しており、部会のうち子ども・ひとり親対策部会



▲2月にはコロナ禍では広いホールで定例会を行いました。

ではコロナ禍でできることを探し「『コロナに負けない！子ども応援フードドライブ』を新聞で見、部会員で食べ物を届けた」と発表。通常なら、福祉関連施設訪問研修や「ここにこそサロン」にも協力しています。

特徴としては、地域包括支援センターとのつながりが強く、毎回、定例会後に直接社協職員に委員が、気になる見守りの対象者について相談する時間を設けています。

役員は「コロナで行事も委員相互の交流もできない」と嘆きます。32人が一期目の委員という中で「まずは自分がウイルスに感染しないこと。そして電話や外からの見守りを。今後は、互いに胸の内を自由に言える場を設けたい」と会長は強調し、定例会で委員に呼びかけていました。

飯山市秋津地区民生児童委員協議会



▲民生児童委員の皆さんと市担当者（後列右から二番目が会長の丸山さん、前列右から二番目が副会長の山崎さん）

コロナに負けず、お母さんや子どもたちに夢を与える活動を。

旧秋津村は昭和29年に飯山市に合併。斑尾山の裾野、沓津、立石地区にはかつては秋津小学校分校があったといえます。現在民生児童委員は7人で主任児童委員はその内一人。合併当時は9人体制でしたが、人口減少で削減に。定例会は年10回開催。「型」にはめず、臨機応変な活動を心掛けています。定例会では、できるだけ議論をし、わからないことは相談し

合つ態勢づくりを」と会長の丸山隆志さん。正副会長は共に二期目です。
「今年はクリスマス前から雪が多く、平地でも一晩で5、6センチ積もることも」と副会長の山崎久子さんは話します。去年から今年にかけて、コロナ感染対策や大雪を踏まえて、訪問ができない時には、電話をするなどの見守りを続けています。
小学校の行事も今年度はことごとく中止に。「子どもたちの様子を見るのが難しく心配」と定例会で話し合っていました。
特に力を入れているのは、未満児の子どもと保護者を対象に主任児童委員と民生児童委員が主体となつて「にこにこアキッズ」を月3回も開催していることです。
「クリスマス会では委員がサンタクロースになって、子どもたちは大喜びでした（笑）」と山崎さん。様子が定例会会場の壁に飾られています。定例会では「現在参加登録している親子が11組になった。電話での問い合わせもありニーズが高いと感じる」と主任児童委員が説明します。「大変だけれども年間30回はやる」と全会一致。

コロナ対策をしっかりとし、できる限り開催する予定です。
通常の年には、保育園で、どんど焼きの米粉を使ったもち玉を作るなど、ものづくりの会、節分、クリスマス会に参加しています。
高齢者支援としては、春の戦没者慰霊法要や福祉施設訪問による研修会を開催。そして秋の敬老会には100人近い参加者が集まり、歌などの出し物を企画し、盛大に交流を行います。「今年度はコロナで軒並み中止となり残念」と会長。春の雪解けとともに通常の活動ができることを願って、地道な見守り活動が続きます。



▲リトミックを取り入れた「にこにこアキッズ」の様子



表紙写真紹介

春のいぶき（中部山岳国立公園 柵池自然園）

白馬乗鞍岳の火山活動に伴い生まれた柵池高原は、小谷村の標高1,900mに位置し、日本でも有数の高層湿原があり、春にはミズバショウの大群落などを見ることができます。

撮影

安曇野市豊科地区
元民生児童委員

岡村 豊作さん
(おかむら とよさく)

profile 平成19年に4期務めた民生児童委員を退いて以降、今も地域の福祉活動に関わりながら趣味の写真に没頭し、前向きに過ごしています。



表紙写真募集!!

- 表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしていっしょやる民生児童委員の方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。
- デジカメで撮った作品の電子データをCDRに入れて、
- 撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。
- 詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

「感染拡大防止に配慮しつつも対面」を重視の傾向

令和2年6月末までの定例会再開率、長野県は87% 都道府県レベルで最多

全国民生委員児童委員連合会では昨年9月、「新型コロナウイルスを踏まえた単位民児協活動環境調査」を実施しました。民生委員・児童委員はこれまであらゆる活動を「対面で行う」ことを大切にしてきましたが、コロナ禍でその見直しを迫られています。この調査は、昨年4月の緊急事態宣言発出により民生委員・児童委員個々の活動や単位民児協活動がどう変化したか、を把握するために実施されました。その結果、感染拡大防止に配慮しつつも対面を重視する活動傾向が浮き彫りになりました。今号では定例会と訪問・相談活動の状況をお知らせします。

●調査時期 令和2年9月23日～10月7日（調査基準日：令和2年3月～8月、一部は8月31日）

●調査対象及び回答数 全国の単位民児協会長（10,420人） 回答数6,226人（回収率59.7%）
※うち長野県は回答数175人（回収率61.6%）

●調査結果詳細 全民児連公式サイト <https://www2.shakyo.or.jp/zenminjiren/covid/> に掲載



①定例会 多くが感染拡大防止に配慮しつつ再開

●再開時期は6月が最多 長野県内では同月までに87%の民児協が再開

「定例会を一時中止し、その後再開した」という民児協（全国4,696、うち長野県131）に定例会再開時期を聞いたところ、「令和2年6月」が全国・長野県それぞれ2,233（47.6%）、72（55.0%）と、いずれも最多でした。また長野県内では3～6月の間に114民児協が定例会を再開、再開率は全国の63.5%を大きく上回る87.0%と、都道府県レベルでは全国最多でした。

●実施方法 「集合・対面形式」が圧倒的、「ビデオ会議」は極めて少数

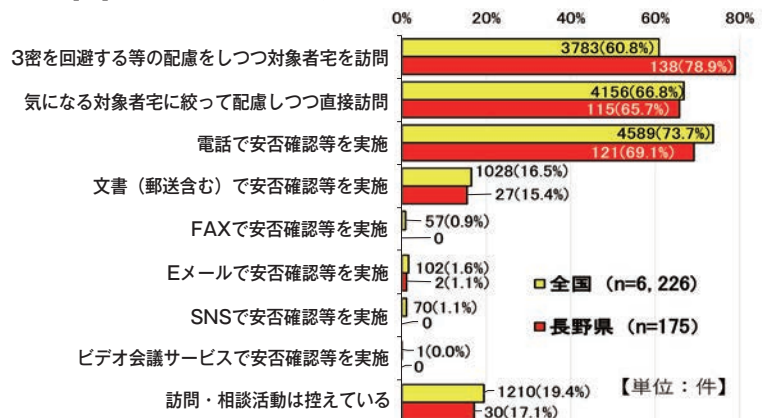
定例会を「中止しなかった」又は「一時中止したが再開した」と回答した民児協に、定例会実施方法を聞いたところ、「感染拡大防止の配慮をしつつ集合・対面形式で実施」が最多（全国・長野県いずれも9割以上がこの方法で実施）でした。一方、「ビデオ会議サービスによる開催」は本県では0、全国でも15民児協（0.3%）にとどまり、極めて少数でした。

②訪問・相談活動状況 長野県「感染予防に配慮し対象者宅を直接訪問」が最多 全国と異なる傾向も

【図】訪問・相談活動に関する申し合わせ・工夫内容（複数回答）

「訪問・相談活動に関する申し合わせ・工夫内容」を複数回答で聞いたところ、全国的には「電話での安否確認」が最多、次いで「気になる対象者宅に絞って配慮をしつつ訪問」の順でした。一方長野県は「感染予防の配慮をして直接訪問」が最多、次いで「電話での安否確認」の順でした。

また「訪問・相談活動は控えている」という民児協が全国・長野県いずれも2割弱存在する実態も明らかになりました。



未だコロナ禍の先行きが不透明な中、地域の学校等との交流が極端に減ってしまったり、対象者の方々への接し方も変わってしまったりと、日々の活動に不安を抱きながら、ご苦労されている民生児童委員さんも多いことと思います。

編集会議でも、そのような声を多く聞く中で、ウィズコロナの中、暗い話ばかりでなく、少しでも皆さんのお役に立つようなテーマが探せないかと、毎回思いを込めて議論を重ねています。

特に児童委員としてどのような仕事をしたらよいのか、あるいは地域の主任児童委員との関わり方についてなど、児童に関する仕事についての情報が欲しいということになり、前号は、「信州こどもカフェ」として、子どもの居場所や子ども食堂についての特集をしました。

そして、今回は、「ひきこもり支援」をテーマに、表には出にくい悩みを抱えた子どもたちなどの現状について特集します。私たちにできることは、この広報誌のタイトルにもあるとおり、「つなぐ」ことなのだと改めて勉強になりました。

委員 林 みな



広報委員
リレー日記